

カリキュラム・マネジメントの充実

～探究的な学習の歩み、指定3年間をまとめて～



本物の探究が

きつとそこにある



充実した活動

子供たち主導で大人を巻き込む！



「防災力アップ・プロジェクト」と題し、地域避難訓練を子供たち自身が計画。学校運営協議会にて提案後、自分たちが大人を巻き込み、手作りのプロジェクトを遂行した。防災力を「備え力」「情報収集力」「きずな力」と定義し、それぞれの力を高めるための取組として実施。参加対象の地域の方の自宅から避難所までの避難経路を子供たち自身で設定し、その道を地域の方と一緒に歩く中で、設定した経路の良さ悪しや、災害発生当時の被害を確認しながら避難訓練を行った。訓練後は、地域団体の協力のもとで炊き出し体験を行った。地域に根ざし、現実的な課題の解決に向けた取組となった。

資質・能力の育成

対話

探究

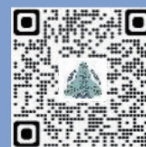
貢献

呉市立天応学園

【学校教育目標】 かかわる つながる よく生きる
探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業

3年間の取組をさらに詳しく知りたい方はこちらへ→

令和6年1月作成



天応学園 HP

探究的な学習を進める上での 課題と方策の整理

課題	方策	
①探究課題が児童生徒自身のものとなっていない。	・探究課題に対し開いた問いづくり。 ・発達段階に応じた分類。	A
②目的が不明確。情報収集が形式化。	・探究課題に係る基礎データの整理。 ・データから生み出す「問い」。	B
③学んでほしいことを児童生徒に順に与えている。	・実現したい姿を明確にし、その実現に必要な資源を検討しながらプロジェクトの立ち上げ。「問い」を追究するために、必要かつ適切な情報収集を選択・実行。	C
④「まとめ・表現」の取組の停滞。	・体験で終わる取組の廃止。 ・「問い」の事前検討時に、児童生徒の発想を想定した対応策の準備。	D E
⑤探究のサイクルが繰り返されない。	・積極的な失敗体験。 ・目的に応じた他者（専門家、行政、地域住民等）と協働する場。	F G
	・提案型のゴール設定。 ・「問い」の階層の整理。	H I

方策 A 開いた問いづくり



学年始休業や夏季休業等を活用し、各学年の探究課題に対し、「どのような問いを立てれば児童生徒の思考を促すのか」「立てた問いが当該学年にふさわしい問いなのか」等を検討した。

方策 B データの整理 データから生み出す問い



生徒自らがアンケート調査の内容を考えた。結果を課題設定に活用した。



保護者や教員といった身近な大人の意識調査を活用した。分析する中で、課題意識を高めることができた。



国立呉工業高等専門学校が行った、天応地区を対象とした調査結果を効果的に活用した。

方策 C プロジェクトの立ち上げ



児童生徒の「やってみたい」や「こうしたい」を大切に、学びを社会に還元できるプロジェクトを計画。遂行に必要なことや協力を得たい人などをチームで検討した。



プロジェクト名は、児童生徒が「やってみたい」「探究することが楽しみ」と思える「キャッチー」なネーミングを検討。目的や課題を明確にすることができた。

方策 E 対応策の準備



学年団ごとにてペアで、担当する学年で取り組む予定のことを共有。投げかける問いや児童生徒の反応を想定した対応策を検討した。

方策 D 体験で終わらない



地域内で建設中の砂防ダムを見学し、分かったことをプロジェクトの計画や課題設定に活かした。

体験活動は
情報収集の1つ



地域の防災力を向上させるプロジェクトの遂行に向けて、向上させるべき防災力を知るため、地域の主要避難所を見学した。防災力「備え力」チームは、この経験をもとに、地域合同避難訓練の実施を計画し、実施した。



災害時に避難所になる本校体育館にて、4年生の児童が防災宿泊体験を実施。「避難時に必要なこと」を知るため、寝食に必要なものを自分たちで用意。段ボールベッドなども体験した。体験から得た気づきをもとに対話を通して整理・分析。パンフレットにまとめ、地域に情報発信した。



「災害時の非常食」をテーマに、身近にあるものを活用した非常食を地域社会に提案しようと、地域ボランティア団体と協働して試作した。その体験を参考にしながら、作成事例やポイントなどをタブレットで動画にまとめた。

課題の設定

情報の収集

P 探究のサイクル roject Based Learning

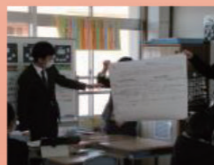
まとめ・表現

整理・分析

ループリックの活用

単元	【前期・中期・後期】 評価標準
A	【前期】
B	【中期】
C	【後期】
A + B + C	【総合評価】

単元の初めに、設定したループリックを子どもたちと確認し、目指す姿を共有。単元の最後に、自己評価をさせることで、単元を通して自分の姿を俯瞰して考えさせることができた。



研究授業後の協議を、ループリックをもとに実施。実際に観察した子どもの姿をループリックに照らし、指導の在り方を検討した。

方策 I 問いの階層の整理



「本質的な問い」や「単元を貫く問い」等に関する理論研修を実施。問いに関する授業者の考え方を整理し、どのような問い方がどの階層の問いになり得るか、子供の本気の思考を促すかを検討したことで、質の高い問いの設定に近づけた。

演習の流れ①

1. 各グループについて、どういった意味の問いを考えたか。(5分)
2. 個人で問いを書き、授業に書いていく。(5分)
3. 各グループの問いを、問いの階層ごとにまとめる。(5分)
4. 問いの、内容を絞り込む。(5分)
5. グループ内で問いの階層を整理する。(5分)
6. グループ内で問いの階層を整理する。(5分)

呉版単元構想シートを活用し、学びをファンリテートできるように、単元における探究のサイクルや各階層の問いを計画。計画段階から授業改善を単元構想レベルで協議したことで、ねらいが明確化され、児童生徒が深く考えようとする単元構想を行うことができた。

方策 H 提案型のゴール



西日本豪雨災害発生時の様子を今に残そうと、6年生の児童がミュージアムを作成。被災当時の様子を地図上で表したり、地域の方の声をまとめ、展示したりし、児童自らが説明した。



1年生が地域の年長児を対象に「おもちゃランド」を企画。園児が楽しめるおもちゃを試行錯誤して作成した。



新体育館棟の設備や建設に込められた思いを、来校者の方々に説明。調べたことを、自分自身の考えとともに発信。



「天応まちづくり討論会」と題して、学びの成果を発表し、地域の方とまちづくりについて考える場を設定した。



他校とオンラインで交流し、自分たちが学び、まとめたことを発表。災害に強いまちづくりに向けて提案し合った。



「防災×SDGs」をテーマに地球温暖化を防ぐプラスチックの削減に焦点を当て、9年生が6年生に、Tシャツを使って作れるエコバッグ作成のレクチャー会を行った。



地域の幼稚園児に自作の防災絵本を作成し、読み聞かせを実施。地域の様々な年齢層へのアプローチの1つ。



地域の防災力向上を目指し、避難訓練を計画・実施。避難経路マップを自作し、地域の方と実際に歩きながら提案した。



左記との関連でSDGsウィークを企画し、参加者にオリジナルステッカーを配付。

方策 G 他者との協働

異なる多様な他者との対話



地域ボランティア団体と幾度も意見交換を行い、自分たちの計画を実行可能な形に作り上げていった。



国立呉工業高等専門学校の学生と協働し、災害に強いまちづくりについて自分たちには何ができるかを話し合った。



5年生が作成したスライドを8年生が添削・アドバイスするといった異学年での協働場面を設定した。



左記での検討を具体的な取組につなげようと、地域の現地踏査をもとにした手作りハザードマップを作成。地域に情報発信した。



防災についての自分たちの計画を提案。市役所の担当部署の方の助言で、検討できていない部分に気づけた。



新体育館棟を設計された方と交流し、その設備や思いを地域にもっと知ってもらおう取組を検討した。